

みかん・かんきつ

「みかん」は、農薬取締法では温州みかん、紀州みかんを指し、中グループの「かんきつ」に含まれる。

「かんきつ」に適用のある農薬は、温州みかんにも、その他のかんきつにも使用できる。かんきつで使用基準が異なる場合は、「みかん」「なつみかん」「かんきつ(除みかん)」等と表記している。

外果皮を使用する場合は「かんきつ」に適用のある農薬を使用すること。

————— 発病・加害時期
 ===== 発病・加害最盛期

| 作型・病害虫名 | 月 | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|---|---|----|-------|-------|-------|---|---|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 露地 | | | | 発芽 | 開花 | | | | | | | 収穫 |
| そうか病 | | | | | ————— | | | | | | | |
| 灰色かび病 | | | | | ————— | | | | | | | |
| 黒点病 | | | | | ————— | | | | | | | |
| 蔵病 | | | | | | | | | | | | |
| ミカンハダニ | | | | | | ————— | | | | | | |
| ミカンサビダニ | | | | | | | ————— | | | | | |
| チャノホコリダニ | | | | | | | ————— | | | | | |
| チャノキイロアザミウマ | | | | | | | ————— | | | | | |
| コナカイガラムシ類 | | | | | | | ————— | | | | | |
| ナシマルカイガラムシ | | | | | | | ————— | | | | | |
| ヤノネカイガラムシ | | | | | | | ————— | | | | | |
| ロウムシ類 | | | | | | | ————— | | | | | |
| ミカンハモグリガ | | | | | | | ————— | | | | | |
| アブラムシ類 | | | | | | | ————— | | | | | |
| コアオハナムグリ(訪花昆虫) | | | | | | | ————— | | | | | |
| ミカンナガタマムシ | | | | | | | ————— | | | | | |
| ゴマダラカミキリ | | | | | | | ————— | | | | | |
| ミカンコナジラミ | | | | | | | ————— | | | | | |
| カメムシ類 | | | | | | | ————— | | | | | |

そうか病

留意事項

- 1 幼木に発病が多い。
- 2 降雨時間が長いと発病が多い。
- 3 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 4 QoI剤(11)、SDHI剤(7)は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害葉・越冬り病葉は早期に除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 窒素質肥料の過用を避ける。
- 3 排水、通風を良好にする。
- 4 前年に多発した園は、4月中旬（新芽が数mm伸びた時期）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [デランフロアブル](#) 劇 M9 【かんきつ 1000倍 30日/3回】
- 5 発生が見込まれる時期（5～6月）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ゲッター水和剤](#) 10 1
【みかん 1000～1500倍 7日/5回】
【かんきつ（除みかん） 1500倍 21日/5回】
 - ・ [ナティーボフロアブル](#) 3 11 【かんきつ 1500～2000倍 前日/3回】
 - ・ [パレード15フロアブル](#) 7 【かんきつ 2000～3000倍 7日/2回】

かいよう病

留意事項

- 1 風当たりの強い園や台風後に発生が多い。
- 2 ミカンハモグリガの食害痕などから多く発生する。
- 3 ICボルドー66Dは新梢伸長期に散布すると石灰による葉焼けを生じる恐れがあるので使用を避ける。また、梅雨明け以降の高温時散布は薬害を生じる恐れがあるので使用を避ける。
- 4 カスミンボルドーを散布する時には、薬害軽減のためクレフノン(200倍 —/—)を加用する。

防除方法

- 1 防風林、防風垣を設置する。
- 2 新植時には無病苗を用いる。
- 3 窒素質肥料の過用を避ける。
- 4 被害葉・被害枝は早期に除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 ミカンハモグリガの防除に努める。
- 6 り病性かんきつ類（レモン、なつみかん、ネーブル等）との混植を避ける。
- 7 発芽前に発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ICボルドー66D](#) M1 【かんきつ 25～200倍 —/—】
 - ・ [カスミンボルドー](#) M1 24
【みかん 1000倍 7日/5回】
【かんきつ（除みかん） 1000倍 45日/5回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 8 春梢伸長期、夏秋梢伸長期（台風後）に発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [バリダシン液剤5](#) **U18** 【かんきつ 500倍 7日/4回】

灰色かび病

留意事項

- 1 多雨、多湿条件下で発生が多い。
- 2 開花期から落弁期に発生すると傷果の原因となる。
- 3 QoI剤 (**11**)、SDHI剤 (**7**) は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 園内の通風及び樹冠内への日照を良好にする。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ストロビードライフフロアブル](#) **11** 【かんきつ 2000～3000倍 14日/3回】
 - ・ [ベルコート水和剤](#) **M7**
【みかん 1000～2000倍 前日/3回】
【かんきつ（除みかん） 2000倍 前日/2回】
 - ・ [フルーツセイバー](#) **7** 【かんきつ 1500～2000倍 前日/3回】
 - ・ [パレード15フロアブル](#) **7** 【かんきつ 2000～3000倍 7日/2回】

黒点病

留意事項

- 1 6～10月に降雨が多いと発生が多い。
- 2 老木や管理不良園で発病が多い。
- 3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤には、展着剤を加用しない方がよい。
- 4 収穫60日前までの散布剤については散布時期に特に注意する。（早生温州）
- 5 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤等では、かぶれに注意する。
- 6 QoI剤 (**11**) は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 7 ペンコゼブ水和剤、ジマンダイセン水和剤は同一成分マンゼブを含むため、使用は合計4回まで。

防除方法

- 1 枯枝をせん定しほ場外に持ち出し処分する。
- 2 寒害、日焼、風害などによって枯枝ができないように注意する。
- 3 発生が見込まれる時期（梅雨期、秋雨期）に下記の薬剤を散布する。降雨が多い場合は散布回数を増やす。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ペンコゼブ水和剤](#) M3
 【みかん 400～800倍 30日／4回】
 【かんきつ（除みかん） 600～800倍 90日／4回】
- ・ [ジマンダイセン水和剤](#) M3
 【みかん 400～800倍 30日／4回】
 【かんきつ（除みかん） 600～800倍 90日／4回】
- ・ [ストロビードライフフロアブル](#) 1 1 【かんきつ 2000～3000倍 14日／3回】
- ・ [ナティーボフロアブル](#) 3 1 1 【かんきつ 1500～2000倍 前日／3回】

貯蔵病害

留意事項

- 1 ベフラン液剤25と石灰硫黄合剤の混合は、ベフラン液剤25の希釈液をつくり、かきまぜながら石灰硫黄合剤を加えて調製する。

防除方法

- 1 収穫時果実に傷をつけないように注意する。
- 2 庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にして貯蔵する。
- 3 貯蔵果の点検はたびたび行い、腐敗果を取り除き伝染を防ぐ。
- 4 軸腐病は、枯枝を除去するとともに黒点病防除に努める。
- 5 収穫前に下記の薬剤を散布する。

- ・ [トップジンM水和剤](#) 1
 【みかん 青かび病・緑かび病・軸腐病 2000～3000倍 前日／5回】
 【かんきつ（除みかん） 青かび病・緑かび病・軸腐病 2000～3000倍 前日／5回】
- ・ [ベンレート水和剤](#) 1
 【みかん 青かび病・緑かび病・軸腐病・炭疽病・黒斑病 4000～6000倍 前日／4回】
 【かんきつ（除みかん） 青かび病・緑かび病・軸腐病・炭疽病・黒斑病 4000～6000倍 前日／2回】
 【みかん 白かび病 4000倍 前日／4回】
 【かんきつ（除みかん） 白かび病 4000倍 前日／2回】
- ・ [ベフラン液剤25 劇](#) M7
 【みかん 青かび病・緑かび病 2000～3000倍 前日／3回】
 【かんきつ（除みかん、ゆず） 青かび病・緑かび病 2000～3000倍 前日／2回】
 【みかん 白かび病・黒腐病・すす斑病 2000倍 前日／3回】
 【かんきつ（除みかん、ゆず） 白かび病・黒腐病・すす斑病 2000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ベルコートフロアブル](#) M 7
 - 【みかん 青かび病・緑かび病・黒腐病 1000～2000倍 前日／3回】
 - 【かんきつ(除みかん) 青かび病・緑かび病・黒腐病 1000～2000倍 前日／2回】
 - 【みかん 軸腐病 1000倍 前日／3回】
 - 【かんきつ(除みかん) 軸腐病 1000倍 前日／2回】
- ・ [ナティーボフロアブル](#) 3 1 1
 - 【かんきつ 青かび病・緑かび病 1500倍 前日／3回】

ミカンハダニ

留意事項

- 1 冬期のマシン油剤散布によりミカンハダニだけでなくミカンサビダニ、コナジラミ類、カイガラムシ類（ロウムシ類に対する効果は低い）を防除することができる。
- 2 樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油剤散布で薬害を生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する方がよい。
- 3 マシン油剤は6月中～下旬にも使用できるが、果実に油浸が生じることがある。
- 4 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 5 薬液は葉裏によくかかるように散布すると効果が高い。

防除方法

- 1 他の病害虫との同時防除に配慮しつつ、発生初期の防除に重点を置く。
- 2 越冬期（12月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。
 - 【マシン油剤 成分95%】
 - ・ [機械油乳剤95](#)、[マシン油乳剤95](#) UNM
 - 【かんきつ ハダニ類越冬卵 30～45倍 冬期／－】
 - 【マシン油剤 成分97%】
 - ・ [ハーベストオイル](#) UNM 【かんきつ 60～80倍 冬期(12月～3月)／－】
 - ・ [スプレーオイル](#) UNM 【かんきつ ハダニ類 50～80倍 12月～3月／－】
 - ・ [アタックオイル](#) UNM 【かんきつ 60～80倍 12月～3月／－】
 - ・ [トモノールS](#) UNM 【かんきつ ハダニ類 60～80倍 12月～3月／－】
- 3 6月中～下旬に下記の薬剤を散布する。
 - 【マシン油剤 成分97%】
 - ・ [ハーベストオイル](#) UNM 【かんきつ 150～200倍 夏期(6月～7月中旬)／－】
 - ・ [スプレーオイル](#) UNM 【かんきつ ハダニ類 100～200倍 4月～10月／－】
 - ・ [アタックオイル](#) UNM 【かんきつ 100～400倍 4月～10月／－】
 - ・ [トモノールS](#) UNM 【かんきつ ハダニ類 100～200倍 夏期／－】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ダニコングフロアブル](#) 25B 【かんきつ 2000～4000倍 前日／1回】
- ・ [スターマイトプラスフロアブル](#) 劇 25A 21A
【かんきつ 1000倍 7日／1回】
- ・ [ダニエモンフロアブル](#) 23 【かんきつ 4000～6000倍 7日／1回】
- ・ [コロマイト水和剤](#) 6 【かんきつ ハダニ類 2000倍 7日／2回】
- ・ [マイトコーネフロアブル](#) 20D 【かんきつ 1000～1500倍 7日／1回】

ミカンサビダニ

留意事項

- 1 近年、一部地域で発生パターンが変化し、9月になってから多発する場合がある。
7月に薬剤を散布しても被害が発生するほ場では9月上～中旬に再散布する。
- 2 マシン油剤散布に当たっての注意はミカンハダニの項と同じ。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤はかぶれに注意する。
- 5 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は同一成分マンゼブを含むため、使用は合計4回まで。

防除方法

- 1 越冬期に下記の薬剤を散布する。
【マシン油剤 成分95%】
 - ・ [機械油乳剤95、マシン油乳剤95](#) UNM 【かんきつ サビダニ 30～45倍 冬期／—】
- 2 発生の初期（7月）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#) UN
【みかん 1000倍 30日／4回】
【かんきつ（除みかん） 1000倍 90日／4回】
 - ・ [ペンコゼブ水和剤](#) UN
【みかん 1000倍 30日／4回】
【かんきつ（除みかん） 1000倍 90日／4回】
 - ・ [エムダイファー水和剤](#) UN
【みかん 1000倍 60日／2回】
【かんきつ（除みかん） 1000倍 90日／2回】
- 3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤に対して薬剤抵抗性が生じている地域では、7月中旬に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【かんきつ 2000～6000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ダニカット乳剤20](#) 19
【みかん 1000～1500倍 14日／1回】
【かんきつ（除みかん） 1000～1500倍 60日／1回】
- ・ [ダニエモンフロアブル](#) 23 【かんきつ 4000～6000倍 7日／1回】
- ・ [ハチハチフロアブル](#) 劇 21A 【かんきつ 2000～3000倍 前日／2回】
- ・ [コロマイト水和剤](#) 6 【かんきつ 2000～3000倍 7日／2回】

チャノホコリダニ

留意事項

- 1 例年、被害が発生する園では、落弁期直後～幼果期に防除を行う。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 新梢や果実の被害を認めたら下記のいずれかの薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13 【かんきつ 2000～6000倍 前日／2回】
 - ・ [コロマイト水和剤](#) 6 【かんきつ 2000倍 7日／2回】
 - ・ [スターマイトプラスフロアブル](#) 劇 25A 21A 【かんきつ 1000倍 7日／1回】

チャノキイロアザミウマ

留意事項

- 1 イヌマキ、サンゴジュ、かき、ぶどう、茶などにも発生する。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4A
【かんきつ アザミウマ類 2000～4000倍 14日／3回】
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 4A
【かんきつ アザミウマ類 2000～5000倍 14日（但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く）／3回】
 - ・ [ハチハチフロアブル](#) 劇 21A
【かんきつ アザミウマ類 1000～2000倍 前日／2回】
 - ・ [エクシレルSE](#) 28 【かんきつ アザミウマ類 5000倍 前日／3回】

コナカイガラムシ類

留意事項

- 注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。
- 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油剤散布で薬害を生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する方がよい。
- 2 日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多く発生する。
- 3 多発すると虫の排泄物により、すす病が発生し果実が黒く汚れる。

防除方法

- 1 発生の多い園では越冬期（12月中～下旬）に下記のいずれかの薬剤を散布する。

【マシン油剤 成分95%】

- ・ [機械油乳剤95](#)、[マシン油乳剤95](#) UNM

【かんきつ ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ 30～45倍 冬期／－】

【マシン油剤 成分97%】

- ・ [ハーベストオイル](#) UNM

【かんきつ カイガラムシ類 60～80倍 冬期(12月～3月)／－】

- ・ [スプレーオイル](#) UNM

【かんきつ ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ類 50～80倍
12月～3月／－】

- ・ [アタックオイル](#)、[トモノールS](#) UNM

【かんきつ カイガラムシ類 60～80倍 12月～3月／－】

- 2 第1世代幼虫期（6月中～下旬）と第2世代幼虫期（8月中旬～9月上旬）に下記の薬剤を散布する。

- ・ [アプロードフロアブル](#) 1 6

【みかん カイガラムシ類幼虫 1000倍 14日／3回】

【かんきつ（除みかん） カイガラムシ類幼虫 1000倍 45日／3回】

- ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C

【かんきつ カイガラムシ類 1000～2000倍 前日／3回】

- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A

【かんきつ カイガラムシ類 2000～4000倍 14日／3回】

- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B

【かんきつ カイガラムシ類(除アカマルカイガラムシ) 2000～3000倍
前日／3回】

ナシマルカイガラムシ

留意事項

- 1 以前はサンホーゼカイガラムシと呼ばれた。
- 2 幼虫で越冬する。越冬期のマシン油剤による防除効果は高い。
- 3 樹幹や枝に寄生することが多いので、葉や果実だけでなく、これらの部分にも十分薬液がかかるように散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 4 越冬期のマシン油剤は樹勢が弱っている場合は薬害を生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する方がよい。

防除方法

- 越冬期（12月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。
 - 【マシン油剤 成分95%】
 - ・ [機械油乳剤95](#)、[マシン油乳剤95](#) UNM
 - 【かんきつ ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ 30～45倍 冬期／－】
 - 【マシン油剤 成分97%】
 - ・ [ハーベストオイル](#) UNM
 - 【かんきつ カイガラムシ類 60～80倍 冬期(12月～3月)／－】
 - ・ [スプレーオイル](#) UNM
 - 【かんきつ ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ類 50～80倍 12月～3月／－】
 - ・ [アタックオイル](#)、[トモノールS](#) UNM
 - 【かんきつ カイガラムシ類 60～80倍 12月～3月／－】
- 第1世代（5月下旬～6月中旬）と第2世代（8月上～中旬）の幼虫発生期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B
 - 【かんきつ カイガラムシ類(除ヤノネカイガラムシ) 1000倍 14日／2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A
 - 【かんきつ カイガラムシ類 2000～4000倍 14日／3回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C
 - 【かんきつ カイガラムシ類 1000～2000倍 前日／3回】

ヤノネカイガラムシ

留意事項

- なるべく天敵への影響の少ない薬剤（アプロードフロアブル）を散布する。
- アプロードフロアブルは老齢幼虫には効果が低いため、若齢幼虫発生期（5月下旬、8月中旬）に散布する。
- 越冬期のマシン油剤は樹勢が弱っている場合は薬害を生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する方がよい。

防除方法

- ヤノネカイガラムシの天敵（ヤノネツヤコバチ、ヤノネキイロコバチ）を保護する。）
- 越冬期（12月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【マシン油剤 成分95%】

・ [機械油乳剤95](#)、[マシン油乳剤95](#) UNM

【かんきつ ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ 30～45倍 冬期／－】

【マシン油剤 成分97%】

・ [ハーベストオイル](#) UNM

【かんきつ カイガラムシ類 60～80倍 冬期(12月～3月)／－】

・ [スプレーオイル](#) UNM

【かんきつ ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ類 50～80倍
12月～3月／－】

・ [アタックオイル](#)、[トモノールS](#) UNM

【かんきつ カイガラムシ類 60～80倍 12月～3月／－】

3 第1世代幼虫発生期（5月下旬～6月下旬）及び第2世代幼虫発生期（8月中旬～9月上旬）に下記の薬剤を散布する。

・ [アプロードフロアブル](#) 1 6

【みかん カイガラムシ類幼虫 1000倍 14日／3回】

【かんきつ（除みかん） カイガラムシ類幼虫 1000倍 45日／3回】

・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【かんきつ 1000～1500倍 14日／2回】

・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A

【かんきつ 2000倍 前日／3回】

・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C

【かんきつ カイガラムシ類 1000～2000倍 前日／3回】

ロウムシ類

留意事項

1 ルビーロウムシの天敵寄生蜂としてルビーアカヤドリコバチがいる。

防除方法

1 幼虫発生期（7月上～中旬）に下記の薬剤を散布する。

・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) 4 A 【かんきつ 2000倍 14日／3回】

ミカンハモグリガ

留意事項

1 夏・秋期に発生が多く、幼木に被害が多い。

2 発生が多いと、かいよう病を誘発する。

3 新梢、新葉を中心に散布すると効果的である。

4 アディオン乳剤は、散布後にハダニ類が発生しやすいので注意する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【かんきつ 2000～4000倍 14日／6回】
 - ・ [ノーモルト乳剤](#) 1 5 【みかん、なつみかん 1000～2000倍 21日／3回】
 - ・ [ロディー乳剤](#) 劇 3 A 【かんきつ 2000倍 7日／4回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) 4 A 【かんきつ 2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [エクシレルSE](#) 2 8 【かんきつ 5000倍 前日／3回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 発生初期（5～6月）の防除に重点を置く。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記のいずれかの薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【かんきつ 2000～4000倍 14日／3回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C 【かんきつ 2000倍 前日／3回】
 - ・ [ロディー乳剤](#) 劇 3 A 【かんきつ 2000倍 7日／4回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【かんきつ 4000倍 前日／3回】

コアオハナムグリ（訪花昆虫）

防除方法

- 1 開花初期～盛期（5月上～中旬）に発生を認めたら下記のいずれかの薬剤を1～2回散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【かんきつ 2000～4000倍 14日／3回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【かんきつ 2000倍 前日／3回】
 - ・ [ロディー乳剤](#) 劇 3 A 【かんきつ 2000倍 7日／4回】
 - ・ [エクシレルSE](#) 2 8 【かんきつ 5000倍 前日／3回】

ミカンナガタムシ

留意事項

- 1 年1回の発生で成虫は6～9月に発生する。
- 2 寒風害による落葉、干ばつの被害などで樹勢が弱ると発生しやすくなるので注意する。
- 3 ガットサイドSは、薬害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。
- 4 ミクロデナポン水和剤85は、みかん以外のかんきつには適用がない。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 被害の激しい木（葉が変色し黄化しはじめた木）は伐採して、4月までにほ場外に持ち出し処分する。
- 2 成虫の発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ミクロデナポン水和剤85 劇](#) 1 A 【みかん 1700倍 21日／4回】
- 3 5～6月（成虫発生期直前）に下記の薬剤を塗布する。
 - ・ [ガットサイドS](#) 1 B
 - 【みかん 1(原液)～1.5倍 直径3cm以上の主枝、垂主枝、側枝に塗布 5～6月(成虫発生期直前)(90日)／1回】
 - 【なつみかん 1(原液)～1.5倍 直径3cm以上の主枝、垂主枝、側枝に塗布 5～6月(成虫発生期直前)(120日)／1回】

ゴマダラカミキリ

留意事項

- 1 バイオリサ・カミキリは昆虫病原性糸状菌を製剤化した殺虫剤で、カミキリムシ成虫に殺虫効果を示す。殺虫効果は約30日間持続するが、降雨、殺菌剤、ナメクジ類などの影響で短くなる場合があるので注意する。
- 2 ガットサイドS、トラサイドA乳剤、モスピラン顆粒水溶剤(200～400倍)は、薬害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。
- 3 少発生時には、耕種的防除法が効果的である。
- 4 モスピラン顆粒水溶剤は2000～4000倍の散布と、200～400倍液の散布を合わせて3回以内。
- 5 園芸用キンチョールEを使用する場合、逆流した薬液が収穫物にかからないように注意する。
- 6 ガットサイドSとトラサイドA乳剤は同一成分MEPを含むため、樹幹処理は合計1回まで。

防除方法

- 1 成虫は見つけ次第捕殺する。
- 2 産卵を防ぐために幹の地際部にネットを巻きつける。
- 3 成虫発生初期（5月下旬～6月中旬）に下記の薬剤を地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。
 - ・ [バイオリサ・カミキリ](#) —
 - 【果樹類 カミキリムシ類 1本／1樹 成虫発生初期／—】
- 4 成虫の発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) 4 C
 - 【かんきつ ゴマダラカミキリ成虫 2000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ **モスピラン顆粒水溶剤** 劇 4 A
【かんきつ ゴマダラカミキリ成虫 2000～4000倍 14日／3回】
 - ・ **ダントツ水溶剤** 4 A 【かんきつ 2000～4000倍 前日／3回】
- 5 6～7月に下記の薬剤を塗布または散布する。
- ・ **ガットサイドS** 1 B
【みかん カミキリムシ類 1(原液)～1.5倍 樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで塗布 6～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)(90日)／1回】
【なつみかん カミキリムシ類 1(原液)～1.5倍 樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで塗布 6～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)(120日)／1回】
 - ・ **トラサイドA乳剤** 1 B
【みかん カミキリムシ類 200倍 樹幹部に十分散布 産卵最盛期～幼虫食入初期(14日)／1回】
 - ・ **モスピラン顆粒水溶剤** 劇 4 A
【かんきつ 200～400倍 主幹から株元に散布 14日／3回】
- 6 幼虫食入期(7月中旬～8月上旬)に食入孔内へ下記の薬剤を噴射する。
- ・ **園芸用キンチョールE** 3 A
【かんきつ 食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する 14日／6回】

ミカンコナジラミ

留意事項

- 1 薬液は葉裏に十分かかるように散布する。
- 2 成虫発生最盛期の約20日後が防除適期である。

防除方法

- 1 日当たりや風通しの悪いところで発生しやすいので、密植園の間伐やせん定を十分行い通風、採光をよくする。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ **エルサン乳剤** 劇 1 B 【かんきつ 1000倍 14日／2回】
 - ・ **モスピラン顆粒水溶剤** 劇 4 A 【かんきつ コナジラミ類 4000倍 14日／3回】
 - ・ **ダントツ水溶剤** 4 A 【かんきつ コナジラミ類 2000～4000倍 前日／3回】

カメムシ類

留意事項

- 1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて防除する。
- 2 ピレスロイド剤(3 A)を連用するとハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなるので注意する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【かんきつ 2000倍 14日／6回】
 - ・ [スミチオン乳剤](#) 1 B
 - 【みかん 1000倍 14日／5回】
 - 【かんきつ（除みかん） 1000倍 14日／3回】
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
 - 【かんきつ 2000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。